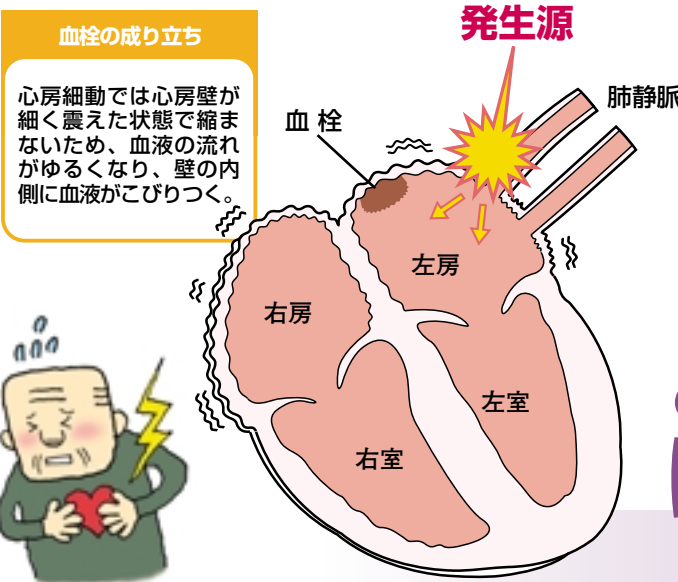


心房細動とは



心房は数億の筋肉細胞からなる「袋」からできていて、この袋が同時に縮む（収縮）ことにより、静脈から戻ってきた血液を効率よく心室へ送り込むポンプ機能を果たしています。心房筋には電気信号の発生とそれを伝える仕組みがあり、それにより心房が収縮・弛緩します。心房細動は、その電気信号が究極に乱れた状態で、心房壁が細

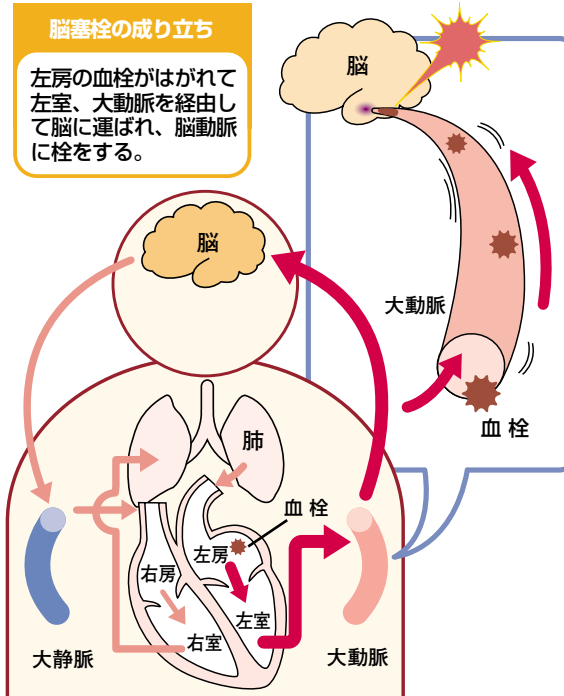


かく震えた状態（細動）になり、心房のポンプとしての働きは完全に失われます。しかし、心房の血液を受け取る心室は正常に機能しているため、健康者では生命にかかわることはほとんどありません。ところが、高齢者や心不全の患者さんでは、心房細動の発生により心臓ポンプ機能が著しく低下する危険があります。

心房細動の治療と脳塞栓の予防

突然起こる発作性心房細動は、動悸が激しくなったり、胸が苦しいといった自覚症状が現れますが、高齢者では自覚症状のない場合もあります。心房細動が慢性化して起こるようになることがあります。心房細動が慢性化して起こるようになることがあります。心房細動が慢性化して起こるようになることがあります。

心房細動が原因で起こる脳塞栓



心房細動は年齢が増すとともに増える傾向があります。脳血管を血栓が塞いでしまう、脳卒中の一つである脳塞栓症を起こすので、心房細動は年齢が増すとともに増える傾向があります。脳血管を血栓が塞いでしまう、脳卒中の一つである脳塞栓症を起こすので、心房細動は年齢が増すとともに増える傾向があります。

心房細動が危険といわれる理由に、脳卒中を起こしやすくなること（血栓）があげられます。心房細動になると心房壁が不規則に震えて血液の流れが悪くなり、脳卒中の一つである脳塞栓症を起こすので、心房細動は年齢が増すとともに増える傾向があります。脳血管を血栓が塞いでしまう、脳卒中の一つである脳塞栓症を起こすので、心房細動は年齢が増すとともに増える傾向があります。

日本心臓財団より

日本心臓財団は、わが国三大死因のうちの心臓病と脳卒中の抑制を目指して、一九七〇年に発足いたしました。当財団は、研究に対する助成や予防啓発、また世界心臓連合加盟団体としての諸活動を通して、心臓血管病の予防・制御に努めております。当財団は皆様のご寄付により運営されています。どうぞ皆様のご協力をお願い申し上げます。

財団法人日本心臓財団
〒100-0005 東京都千代田区丸の内三、四一 新国際ビル
☎03(3101)0180
ホームページ・アドレス <http://www.jhf.or.jp/>